



歯科医・彌勒寺寛之の

視界良好!

前回に続き、今回は噛む力の脳への影響についてお話しします。

噛むことは脳を刺激し、活性化します。脳の中に記憶をつかさどる「海馬」という部分があり、その「海馬」をCTで撮影してみたところ、歯が少ない人は萎縮し、小さくなっているそうです。対して、きちんと自分の歯で食事している人の脳は、大きさがほとんど変わっていませんでした。脳の衰えを防ぐには、自分で噛むことがとても重要です。

入れ歯をつけて過ごすことが、さまざまな障害を引き起こすことは事実です。先ほども言いましたが、あなたが今、入れ歯やブリッジで満足しているなら、それはとても危険なことです。

毎日生活していると、不自由であることにも慣れてしまうことがあります。入れ歯を初めて入れた時の違和感を覚えていますか？ もしかするともう入れ歯に慣れてしまっていないですか？

でもあなたが、さらに大きな入れ歯になる時がすぐにやってきます。大きな入れ歯になり、食事ができなくなった時に初めて気づくのでは遅いのです。脳が萎縮し、取り返しのつかないことになってからでは遅いのです。

海外では、ブリッジや入れ歯は過去の治療として、ほとんど行われていません。それはブリッジや入れ歯によって歯が痛むということを知っているからです。アメリカの歯科医院では1日に行う治療のほとんどが、定期検査です。それに対し、日本では入れ歯、ブリッジ、抜歯、根の治療などが大半を占めます。歯医者は歯が痛くなってから通う所という考えは、昔からあまり変わっていないのです。

ある患者さんは当時84歳です。

歯が1本も残っていなかったため、総入れ歯をいれています。

30年近く総入れ歯を入れています。

第11回

インプラントのススメ⑤

その結果、下顎の奥歯にあたる部分の骨の厚みが6mmしかありませんでした。

この骨の厚みでは、インプラントを埋めるのは絶対無理です。

世界中のどんなにインプラントを上手に埋めることの出来る先生にお願いしても、絶対に断られる症例です。正直言って、こうなってしまっただけは手の打ちようがありません。それにしても、なぜこんなにやせ細ってしまったのでしょうか。入れ歯を使っている患者さんすべてに起こり得る事です。

入れ歯だと歯を削ることもなく安全だというのは、全くの嘘です。この事実を知っている患者さんは1人もいないはずですが、もしも知っていたなら、安易に入れ歯を入れるはずがありません。ベテランの歯科医でも、この事実を何人の先生たちが正しく理解し、患者さんに説明していることでしょうか。

食べられない入れ歯は痴呆をつくってしまうのです。

しかも、上下で80万円もする高価な入れ歯でも同様なのです。

「なぜ私がこのコラムを書くことを決めたのか」

「歯が1本も残ってなくても、取り外し式じゃない固定式の歯をつくることができる。なんて画期的な治療なんだろう」

当時は一般開業医はもちろんのこと、大学病院でもほとんど取り組んでいないところがないような状況でしたので、見学しながら「インプラントができるようになれば患者さんは喜ぶだろう」と思いました。

それで、大学を卒業してからすぐに大学附属病院のインプラント科に籍を置き、その後研修会にも積極的に参加して勉強を始めたのです。

今回は、私がインプラント治療を選択している理由について、具体的にお話しします。

～著者プロフィール～

みろ歯科院長 (2012年10月1日新規開院) 彌勒寺 寛之 (みろくじ ひろゆき)

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

(この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。)

